

「施工計画書の手引き（令和8年4月）」 新旧対照表

改定後（令和8年4月）	改定前（令和7年12月）
<p>《P.2》</p> <p>【2】対象工事</p> <p>香川県の土木工事共通仕様書又は特記仕様書において、「受注者は、工事請負代金額が500万円以上の工事にあつては、工事着手前または施工方法が確定した時期に工事目的物を完成するために必要な手順や工法等についての施工計画書を工事監督員に提出しなければならない。</p> <p>【3】施工計画書の記載事項</p> <p>2. 計画工程表</p> <p>(※) <u>緊急対応を行う維持修繕工事等で省略可能な事項</u></p> <p>《P.3》</p> <p>施工計画書における留意事項</p> <p>(1) 施工計画書は、工事の契約書、設計図書などを十分に理解するとともに現地測量を実施し、現場条件を調査した上で作成・提出すること。施工方法が未確定の工種は、内容確定後に提出すればよい。ただし、当該工種の着手前には提出しなければならない。なお、準備工（現地測量）については、作業日程、作業員名簿、緊急連絡先を記載した工事打合せ簿を事前提出すること。</p> <p>《P.7》</p> <p>2. 計画工程表</p> <p>・計画工程表は、県ホームページ掲載の参考様式 (R8.4 更新) を使用することができる。</p>	<p>《P.2》</p> <p>【2】対象工事</p> <p>香川県の土木工事共通仕様書又は特記仕様書において、「受注者は、工事請負代金額が500万円以上の工事にあつては、工事着手前に工事目的物を完成するために必要な手順や工法等についての施工計画書を工事監督員に提出しなければならない。</p> <p>【3】施工計画書の記載事項</p> <p>2. 計画工程表(※)</p> <p>(※) <u>緊急対応を行う維持修繕工事等で省略可能な事項</u></p> <p>《P.3》</p> <p>施工計画書における留意事項</p> <p>(1) 施工計画書は、工事の契約書、設計図書などを十分に理解するとともに現地測量を実施し、現場条件を調査した上で作成・提出すること。施工方法が未確定の工種は、内容確定後に提出すればよい。ただし、当該工種の着手前には提出しなければならない。なお、準備工（現地測量）の施工計画書については、緊急連絡先などの必要最小限の項目について事前提出すればよい。</p> <p>《P.7》</p> <p>2. 計画工程表</p> <p>・計画工程表は、県ホームページ掲載の参考様式を使用することができる。</p>

改定後（令和8年4月）

《P.8》

計画工程表（記入例）

令和〇年〇月〇日

工事名 県道〇〇線 道路改修工事
工 期 自 令和〇年〇月〇日 至 令和〇年〇月〇日

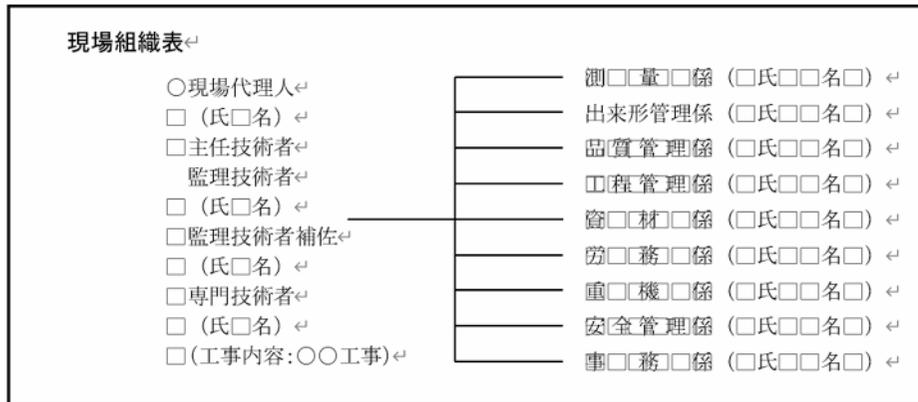
(受注者) 香川県〇〇市〇〇町
〇〇建設株式会社
代表取締役社長 〇〇 〇〇

工 種	5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月				
	日	1	11	21	日	1	11	21	日	1	11	21	日	1	11	21	日	1	11	21
準備工																				
道路土工																				
路床置換工																				
擁壁工																				
排水構造物工																				
構造物撤去工																				
舗装工																				
後片付け																				

記載要領 1 工種は工事数量総括表の工種を記載する。(工種以外でも必要なものは、記載する。)
2 予定工程は黒実線をもって表示する。

《P.9》

3. 現場組織表



注) 1. 現場常駐者は○印をつける。
2. 主任技術者又は監理技術者、監理技術者補佐（配置する場合）の氏名及び専門技術者を置く工事については氏名と担当工事内容を記載する。

改定前（令和7年12月）

《P.8》

計画工程表（記入例）

令和〇年〇月〇日現在

工事番号 県道〇〇線 道路改修事業 (〇〇工区)
工 期 自 令和〇年〇月〇日 至 令和〇年〇月〇日
受注者 住 所 香川県〇〇市〇〇町〇〇
電話番号 〇〇建設株式会社
代表者氏名 代表取締役社長 香川 太郎

工 種	種別 (単位)	数量	単価	着工日	完了日	日標準作業量 (%)	月												備 考							
							5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月								
準備工	式	1	2,000	5/20	6/10	—	2.0																			
仮設工	式	1	13,500	6/10	12/5	—	13.5																			
構造物	作業土工	m ³	1500	800	7/25	8/10	100	0.8																		
	場所打杭工	本	12	12,000	8/10	8/25	0.8	12.0																		
	橋台躯体工	基	2	30,000	8/25	11/20	0.02	30.0																		
構築	護岸基礎工	m	300	6,000	7/25	12/20	6.6	6.0																		
	多自然型護岸工	m ²	2400	30,000	8/10	9/30	48	30.0																		
	橋生工	m ²	4500	4,500	12/20	1/15	180	4.5																		
後片付け	式	1	1,200	1/15	1/31	—	1.2																			
計			100,000				100.0																			
特記事項							100																			
							90																			
							80																			
							70																			
							60																			
							50																			
							40																			
							30																			
							20																			
							10																			
							0																			
							工事総合工程表																			
							総合進捗率																			
							計画(黒実線)																			
							予定	1.0%	6.3%	16.5%	41.6%	70.2%	80.3%	89.1%	96.1%	100.0%										
							実績																			

《P.9》

3. 現場組織表



(注) 1. 現場常駐者は○印をつける。

改定後（令和8年4月）

- 現場事務所（工事関係者の見やすい場所）に掲示すること。

《P.13》

6. 主要資材

品質確認の欄には、事前承諾材料、材料承認対象のうち該当するものに○印を記入すること。

資材の種類			品質確認		生産地等	納入時期	品質規格証明	摘要
名称	規格	数量	事前承諾材料※	材料承認対象	生産工場名 購入先			
生コンクリート	24-12-40BB	853m ³	○	○	〇〇生コン	〇.〇月	試験表 納入伝票	○
異形鉄筋	D25	7.5t	○	○	〇〇商事	〇.〇月	ミルシート 納入伝票	異外品
ヒューム管 外圧管1種	B形 150×28× 2000	10m	○	○	〇〇商事	〇.〇月	—	○
自由勾配側溝 (縦断用)	300×300× 2000	22m	○	○	〇〇商事	〇.〇月	試験表 納入伝票	○
ボックスカルバート	1000×1000× 2000	20m	○	○	〇〇コンクリート	〇.〇月	試験表 納入伝票	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：※事前承諾材料については、材料承認資料の提出を省略できる。

改定前（令和7年12月）

- 主任技術者又は監理技術者（特例監理技術者）、監理技術者補佐（特例監理技術者を配置する場合）の氏名及び専門技術者を置く工事については氏名と担当工事内容を記載する。
なお、監理技術者を配置する場合は、（特例）を削除して記載すること。
- 現場代理人については、夜間、休日等の緊急連絡先を記載する。
- 現場事務所（工事関係者の見やすい場所）に掲示すること。

《P.13》

6. 主要資材

品質確認の欄には、JIS マーク表示品、事前承諾材料、材料承認対象のうち該当するものに○印を記入すること。

資材の種類			品質確認			生産地等	納入時期	品質規格証明	摘要
名称	規格	数量	JISマーク表示品※	事前承諾材料※	材料承認対象	生産工場名 購入先			
生コンクリート	24-12-40BB	853m ³	○	○	○	〇〇生コン	〇.〇月	試験表 納入伝票	○
異形鉄筋	D25	7.5t	○	○	○	〇〇商事	〇.〇月	ミルシート 納入伝票	異外品
ヒューム管 外圧管1種	B形 150×28× 2000	10m	○	○	○	〇〇商事	〇.〇月	—	○
自由勾配側溝 (縦断用)	300×300× 2000	22m	○	○	○	〇〇商事	〇.〇月	試験表 納入伝票	○
ボックスカルバート	1000×1000× 2000	20m	○	○	○	〇〇コンクリート	〇.〇月	試験表 納入伝票	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：※JIS マーク表示品と事前承諾材料については、材料承認資料の提出を省略できる。

改定後（令和8年4月）

《P. 33》

8. 施工管理計画

1) 工程管理（進捗管理）

1ヶ月に1回、計画工程に対する実施工程の進捗を確認し、工事履行報告書を監督員に提出する（実施工程表は、受注者が当該現場で利用しているもので可）。

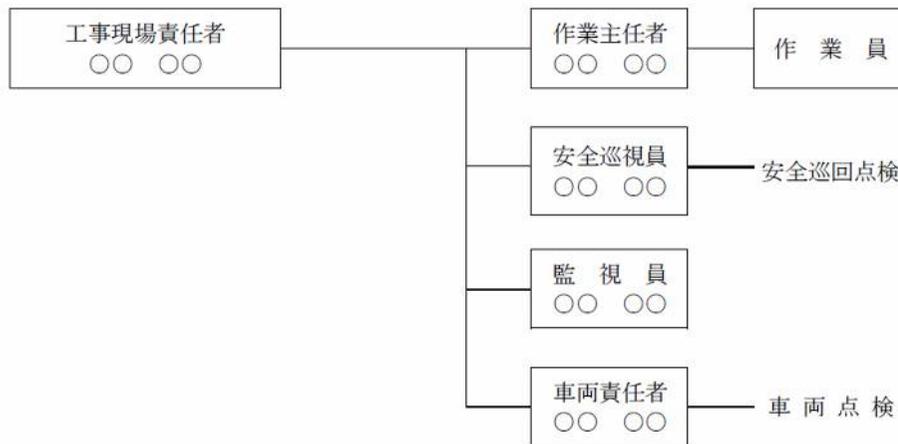
実施工程表は、ネットワーク、バーチャート等、その工事に見合った様式により作成するとともに、進捗管理の方法とフォローアップ実施基準を記載する。ただし、応急工事や維持点々工事等の実施工程表作成の効果が少ないものについては、監督員との協議により作成を省略できる。

進捗管理において、15%以上の遅延の場合はフォローアップ必須とし、工事履行報告書の記載欄において内容を報告すること。

なお、準備工の段階では、工事履行報告書の提出の必要はない。

《P. 42》

・安全管理組織表（元請）（常時50人未満の労働者の場合の記載例）



改定前（令和7年12月）

《P. 33》

8. 施工管理計画

1) 工程管理（進捗管理）

ネットワーク、バーチャート等の作成様式のうち使用する様式を記載するとともに、進捗管理の方法とフォローアップ実施基準を記載する。

進捗管理において、15%以上の遅延の場合はフォローアップ必須とし、工程表の特記事項又は工事履行報告書の記載欄において内容を報告すること。

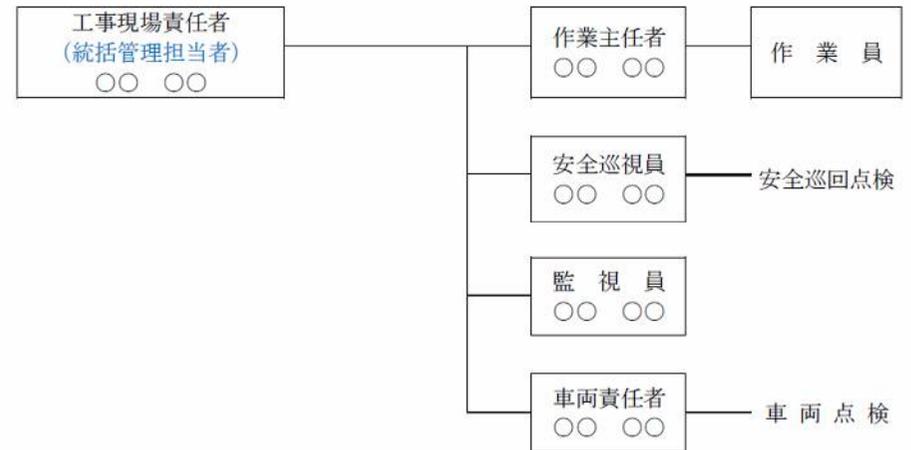
【例】

①管理方法：バーチャート方式

②進捗管理：1ヶ月に1回、計画工程に対する実施工程の進捗を確認し、「工事履行報告書」で工事監督員に報告するとともに、15%以上の遅延が生じた場合は、フォローアップを実施して、その内容を工事監督員に報告する。ただし、準備工の段階では、報告の必要はない。

《P. 42》

・安全管理組織表（元請）（常時50人未満の労働者の場合の記載例）



改定後（令和8年4月）

改定前（令和7年12月）

《P. 50》

・緊急時の体制及び対応（事例）

《P. 50》

・緊急時の体制及び対応（事例）

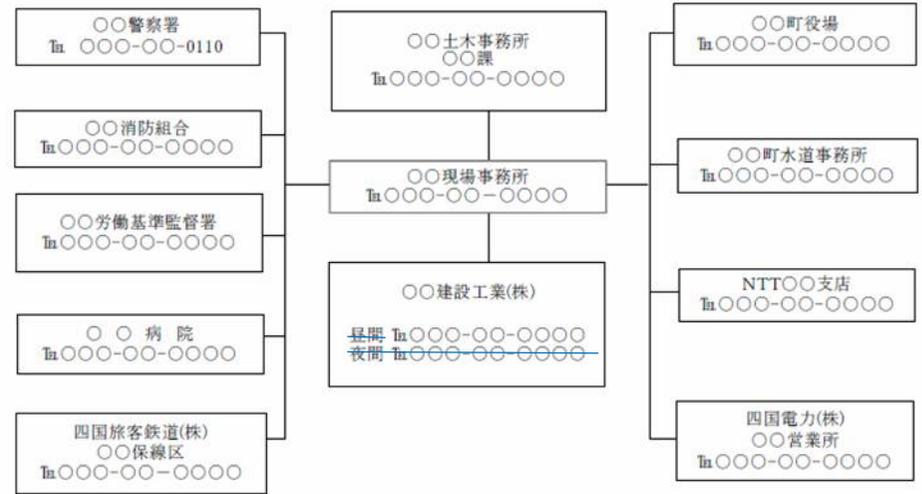
1) 緊急時の連絡系統図



【休日・夜間の連絡先】

連絡先	電話番号
〇〇建設	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

1) 緊急時の連絡系統図



【休日・夜間の連絡先】

職 種	氏 名	電話番号
現場代理人	〇〇 〇〇	090-〇〇-〇〇〇
主任技術者又は (特例)監理技術者	〇〇 〇〇	090-〇〇-〇〇〇
監理技術者補佐	〇〇 〇〇	090-〇〇-〇〇〇

※監理技術者補佐は、特例監理技術者を配置した場合に記載

改定後（令和8年4月）	改定前（令和7年12月）
<p>1 3. 現場作業環境の整備</p> <p>《P. 57》</p> <p>1) 仮設備関係 (例) I 緊急時の電力供給に備え発電機を常備。 II 仮囲いの美装、フラワーポット等の設置。</p> <p>2) 営繕関係 (例) I 交通誘導警備員の待機室を設置。 II 現場事務所にシャワー室や仮眠用の畳敷きスペースを設置。</p> <p>3) 安全関係 (例) I バリケードのカラー化。 II 照明設備、電光式標識等の設置。</p> <p>4) 地域連携 (例) I 工事説明・工事完成予想図の掲示。 II 担い手の確保を目的として、地元高校生を対象に職場体験を実施。</p> <p>5) 現場環境改善の内容 現場環境改善費が計上されている工事は実施計画を記載する。</p> <p>6) その他</p>	<p>1 3. 現場作業環境の整備</p> <p>《P. 57》</p> <p>1) 仮設備関係 (例) I 工事説明・工事完成予想図の掲示。 II 仮囲いの美装、フラワーポット等の設置。</p> <p>2) 安全関係 (例) I バリケードのカラー化。 II 照明設備、電光式標識等の設置。</p> <p>3) 営繕関係 (例) I 現場事務所の快適化。 II 水洗式トイレ、洗面台の設置。</p> <p>4) 現場環境改善の内容 現場環境改善費が計上されている工事は実施計画を記載する。</p> <p>5) その他</p>

改定後（令和8年4月）

現場環境改善実施計画（事例）

項目	①実施する内容	②左記の具体的な実施内容	③実施時期
仮設備関係	1.昇降設備の充実 2.環境負荷の低減 3.ICT設備の充実 4.作業負荷の低減	ここには、左記より選択した4つの内容について、具体的な実施内容を記載すること。なお、1項目でも実施されなかった場合は、現場環境改善費を、全額減とする。	
営繕関係	1.現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む） 2.労働宿舍の快適化 3.現場休憩所の快適化（交通誘導警備員待機室を含む） 4.健康関連設備及び厚生施設の充実等		
安全関係	1.工事標識・照明等安全施設の充実 2.盗難防止対策 3.健康関連施設の充実 4.野生生物・害虫対策等		
地域連携	1.広報活動等（完成予想図、パンフレット、工法説明、PR看板等） 2.見学会・イベント等の開催（見学施設等設置・管理運営等含む） 3.社会貢献・地域対策費等（地域行事等の経費含む） 4.現場景観向上（美装化・デザイン看板等）		

記入時の注意

- ※・①には、それぞれの項目ごとに1内容ずつの計4つの内容を記載すること。
- ・②には、①で選んだ4つの内容に対する具体的な実施内容を記載すること。
なお、「15. その他」に記載する、創意工夫に関する実施計画の内容と重複しない事。
- ・③には、①で選んだ内容の実施時期を記載すること。
- ・現場環境改善実施計画に記載した内容は、工事成績評定の創意工夫・社会性等の評価対象とはしない。

改定前（令和7年12月）

現場環境改善実施計画（事例）

項目	① 実施する内容	② 左記の具体的な実施内容
仮設備関係	1. 用水・電力等の供給設備 2. 緑化、花壇 3. ライトアップ施設 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実 6. 環境負荷の低減	ここには、左記より選択した5つの内容について、具体的な実施内容を記載すること。 なお、1項目でも実施されなかった場合は、現場環境改善費を、全額減とする。
営繕関係	1. 現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む） 2. 労働宿舍の快適化 3. デザインボックス（交通誘導警備員待機室） 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等	
安全関係	1. 工事標識・照明等安全施設のイメージアップ（電光式標識等） 2. 盗難防止対策（警報器等） 3. 避暑（熱中症予防）・防寒対策	
地域連携	1. 完成予想図、2. 工法説明図、3. 工事工程表 4. デザイン工事看板（各工事PR看板含む） 5. 見学会等の開催（イベント等の実施含む） 6. 見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費（地域行事等の経費を含む） 9. 社会貢献	

記入時の注意

- ※・①には、4項目でそれぞれ1内容（1項目については2内容）の計5つの内容を記載すること。
- ・②には、①で選んだ5つの内容に対する具体的な実施内容を記載すること。
なお、「15. その他」に記載する、創意工夫に関する実施計画の内容と重複しない事。
- ・現場環境改善実施計画に記載した内容は、工事成績評定の創意工夫・社会性の評価対象とはしない。
- ・令和7年4月より、熱中症対策・防寒対策に関する費用が、率計上から積み上げ計上に改定されることに伴い、①実施する内容から、避暑（熱中症予防）・防寒対策が削除されていることに注意すること。ただし、港湾土木請負工事積算基準により積算された工事は、実施する内容に避暑（熱中症予防）・防寒対策を含んでも良い。